授業づくり研修講座　実践レポート

相模野小学校　　吉野　麻世

１，実践ポイント

文章の構成や表現の仕方を工夫して、読む人にわかりやすく、心をつかむ文章を書く力を育てる。

２，実践内容

（１）**表現の工夫を学ぶ**

「作文の書き方」「よさを伝える広告」などの学習を通して、表現の仕方によって、印象が変わったり、言葉選びによって感情の度合いや様子が分かったりすることを学習した。

（２）**各材料をたくさん集める**

時間や説明の順序を考えるためにウェビングを活用して各題材をたくさん集め、選んで絞り込み、順番を考える活動を取り入れた。

（３）**書き直す**

まず、一度書く。次に気になったところを調べたり、考え直したりしてつけたし、書き直すようにした。

（４）**意見交流をする**

　自分が書いただけで完成にしてしまうと、読み返しが甘くなったり、表現が広がらなかったりすることがある。友達に読んで聞かせることで、自分の文章のおかしさや相手に伝わらないところがわかる。また、自分の文章について友達の意見を聞いたり、友達の文章を見聞きしたりすることで、より読み手の心をつかむ文章に近づけられるようにした。

３，振り返り

　今まで作文を書くと「～が楽しかった。」「～がおもしろかった。」「～してよかった。」という表現が多かった。しかし、「作文の書き方」の授業で「おもしろさ」にも「思わず吹き出してしまった」おもしろさと「にやけてしまった」おもしろさは違い、読み手の想像が広がり、おもしろさの度合いが加わってくることなどを学び、少し表現が変わってきた。

また、「作文の書き方」や「よさを伝える広告」で作文の書き出しやキャッチコピーの効果を学び、「よさを伝える広告」では、楽しみながら言葉選びや言い方を工夫している姿が見られた。

しかし、語彙力が少ない子も多く、作文の決まりが身についていなかったり、１文でさえ「、」「。」がない、言葉の使い方がおかしいなど文として成り立っていなかったりする児童も少なくない。語彙力を増やす大切さを実感したとともに、低学年からの積み重ねが大事であると感じため、これからの授業や学年でも意識して取り組んでいきたい。